ある日の育児日記から

(50)

佐藤　和代

圭は五歳半。やっと、自転車に乗れるようになりました。

「補助輪はずして！」とせがまれること三か月。近所は交通量が多いからまだ危ない、と心配していた敬（お父さん）も、ついに根負け。補助輪をはずしてくれました。その日からさっそく練習。子どもなら一日で乗れるかな、なんて予想ははずれ、二週間近く、練習につきあわされてしまいました。

それでもようやくスイスイ乗りこなせるようになったので、次の週末はみんなでサイクリング。

これがなかなか楽しかった。誰がかって、私がです。だって、今までは、家族でサイクリングといえば、私の自転車に圭と有と荷物をのせてエッチラオッチラ、だったのです。敬の自転車はマウンテンバイクなので、子どもも荷物もつめない。ずるいなあ…。それがこの日は、荷物の中で一番重かった圭をのせなくていい！　荷物はゆったり置けるし、有ひとりならこぐのも軽い軽い。こんな楽なサイクリング、久しぶり。

子どもが成長するって、こういうことだったのね。ひとりひとり、親の〝荷台〟から降りていくのね…なんて、妙に感動してしまった一日でした。

前のカゴに人形のせて「通園ごっこ」です。